



File1

自然環境を測定しよう♪

ここ数年、「AI」や「IoT」などの言葉が多く使われ、通信・センシング技術は著しく発展してきました。今日では、スマートフォンやそれにつながるウェアラブルデバイスの利用により最新の気象データほか、日常生活における人の情報（バイタルサインの変化）が取得可能となってきました。現在、我々はこの小型センサを用いて、都市環境問題の一つであるヒートアイランド現象の観測をはじめ、都市内の公園（緑地）がもたらすヒートアイランド抑制効果について



定量的に明らかにし、都市計画を進めるうえでの基礎資料づくりにチーム一丸となって取り組んでいます。

一方で、日常生活における人の情報を取得することにより、「どのような環境変化・負荷があったときに、生体反応が起こったのか」について時系列かつ個人毎に追従することが可能となってきました。そこで、森林セラピーを楽しめる「森林セラピー基地」と「セラピーロード」および都市内の大規模公園を対象として、気象観測を実施しながら、緑地のもつ「癒し効果」を気象学的観点から定量的に検証しています。さらに、この気象観測ネットワークを利用した気象災害予測に取り組んでいるほか、データ活用の一環として市民の気象防災教育にも力を入れています。

重田研究室では、人と自然・社会環境との関係について“実践的な研究”をおこない、人々の健康で快適な生活に役立つような成果を得ることを目標にしています。気象学を主体として多くの分野と複合的な研究をしてお

り、様々な大学・研究所・企業とも共同で取り組んでいます。“気象楽”として研究を心から楽しめる「チャレンジングでフロンティアスピリットに溢れる人」と出会えることを日々楽しみにしています。研究室での活動は決して楽（らく）ではありませんが、自信をもってお勧めできる楽しい研究室です。



環境学部

重田 祥範 准教授 博士(理学) 岡山県出身

専門 | 局地気象学、生気象学、自然地理学、地学教育

局地気象学・生気象学が専門。都市ヒートアイランド現象の調査や局地風観測などフィールドワークが得意。気象観測中に様々な動植物に遭遇することが楽しみ。鳥取県の山中ではツキノワグマにも出会った。

File2

「戦略的」に生きることの重要性を理解し、努力し続けることで得られる達成感を味わってほしい

「技術で勝ってビジネスで負ける」を何とかしたい！が、研究テーマ



経営学部

光山 博敏 准教授

専門 | 技術経営、技術戦略、国際戦略経営

日本のものづくり産業は、世界トップ水準の「製造技術」を有しているにもかかわらず、技術力が十分に収益性と結びついていないという課題を抱えています。「技術で勝ってビジネスで負ける」といった、戦略不全の経営から脱却し、技術力に見合う収益性の確保と持続的な競争優位を実現するための技術戦略について研究を続けています。

潜在的なニーズを見極める「目利き力」がポイント

企業が存続していく上で大切なことは、市場ニーズを見極め自社の強みを活かして顧客価値を創造することです。しかし、多様化する顧客価値や加

速度的に変化する市場では、「昨日までの成功体験が明日には通用しない」、なんてことも少なくありません。ポイントは、単に顕在化しているニーズに応えようとするのではなく、市場に埋もれている潜在的なニーズを掘り起こす「目利き力」にあると言えるでしょう。

「迷ったらGO!」の精神で、「一歩目を踏み出す勇気」をもって!

不確実性高まる競争環境下において多くの企業が求める人材とは、「0から1」を創造できる人材です。AIやロボットなどを活用した合理化が益々進展していく現在、皆さんが実務家として活躍していくためには、学生時代から如何に「本物」（「質の高い本」、「競争力のある会社」など）に触れ、そこからどれだけ多くのことを「感じ」、「考え」、そして「学び取る」

（インプット）ことができるのかが求められるのです。つまり、大学時代から戦略的にタイムマネジメントし、目標に向かって努力し続けることが重要になるのです。大学では「迷ったらGO!」の精神で、「一歩目を踏み出す勇気」をもって積極的に行動し、様々な力をつけてほしいと思います。



ゼミでは、県内、県外を問わず競争力のあるメーカーへのインタビュー調査を積極的に行っています。（島根富士通 様にて）